

～ お客さまファーストの銀行へ ～



THE FIRST BANK OF TOYAMA

2026年3月期 第2四半期決算概要

2025年11月7日 (金)

連 結(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	前年同期比
経常収益	29,234	24,916	△ 4,317
経常利益	14,866	10,098	△ 4,767
親会社株主に帰属する中間純利益	10,508	7,303	△ 3,204

単 体(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	前年同期比
業務粗利益	11,039	12,764	1,725
(除く国債等債券損益)	11,562	12,212	649
資金利益	11,069	11,805	735
役務取引等利益	835	832	△ 3
その他業務利益	△ 866	126	993
うち国債等債券損益	△ 522	552	1,075
経費(除く臨時処理分) (△)	6,331	6,311	△ 20
人件費 (△)	2,930	3,020	90
物件費 (△)	2,805	2,795	△ 9
税 金 (△)	595	494	△ 101
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	4,708	6,453	1,745
コア業務純益	5,230	5,901	670
(除く 投資信託解約損益)	4,871	5,474	602
一般貸倒引当金繰入額 (△)	—	87	87
業務純益	4,708	6,365	1,657
臨時損益	10,274	3,182	△ 7,092
うち株式等損益	9,569	3,574	△ 5,995
うち不良債権処理額 (△)	△ 43	238	282
経常利益	14,982	9,548	△ 5,434
特別損益	9	1	△ 7
中間純利益	10,899	7,094	△ 3,805

2026年3月期 連結中間決算の概要

- 前年度は「バーゼルⅢ完全適用を見据えた特別な期」と位置づけ、多額の株式等売却益を計上し自己資本を積み上げた期であったため、前年同期比較では反動減により減収減益
- 前年同期を除けば、親会社株主に帰属する中間純利益は、過去最高水準の利益を計上(2023年度中間期比+4,496百万円増)

(単体決算の概要)

コア業務純益(除く投資信託解約損益)

5,474百万円 (年率12.4%増)

- 貸出金利息・有価証券利息配当金の増加を主因として資金利益が順調に増加した結果、銀行の本業利益を表すコア業務純益は5年連続増益となり、中間期としては過去最高益を4年連続更新

経常利益

9,548百万円 (年率36.3%減)

- 前年同期比では、臨時損益の大幅反動減により減益となったが、2023年度中間期比では+4,650百万円増

中間純利益

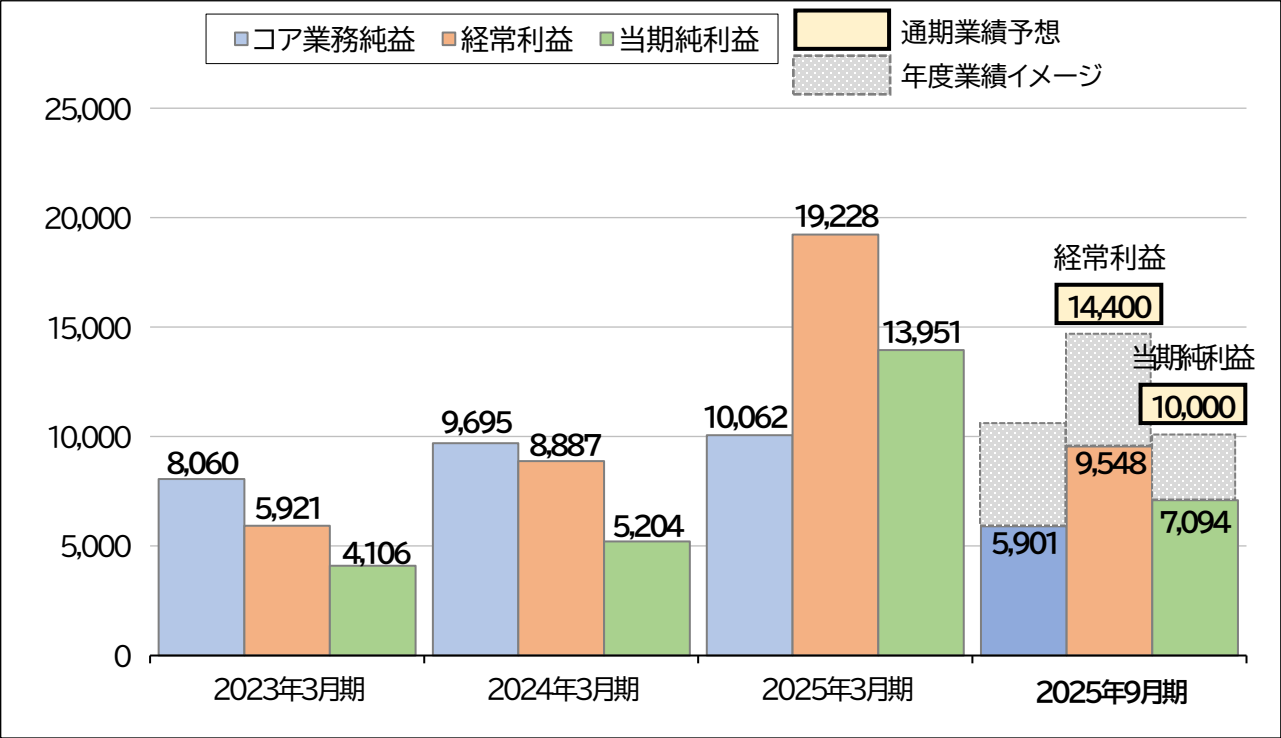
7,094百万円 (年率34.9%減)

- 9月末に上方修正を公表した中間業績予想時から、更なるコア業務純益の積み上げと与信費用の減少により増益(9月末中間業績予想比+6億円)

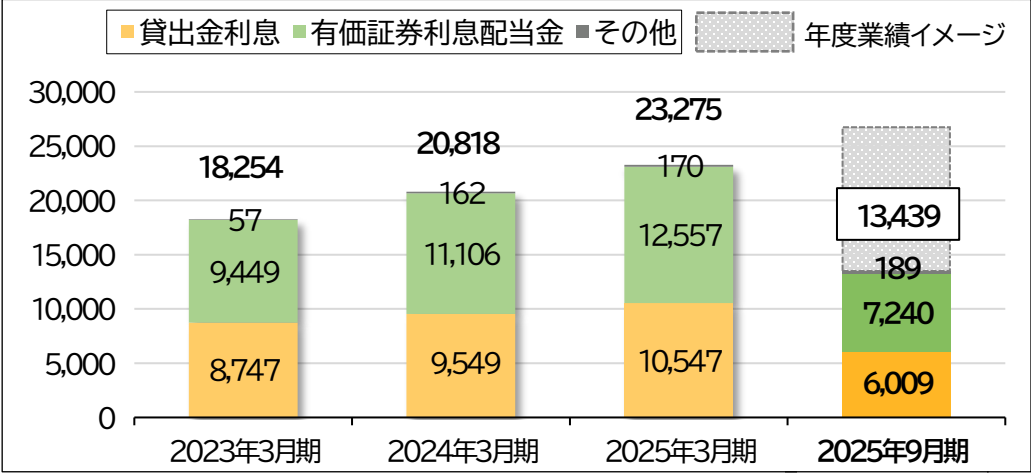
2 コア業務純益の状況 等

- 貸出金利息は残高増加と利回りの改善により4年連続で増加
- 有価証券利息配当金は株式・投資信託の増配等から過去最高を更新
- 役務取引等利益は、取組みを強化してきた法人・個人向けコンサルティング業務を中心に増加基調

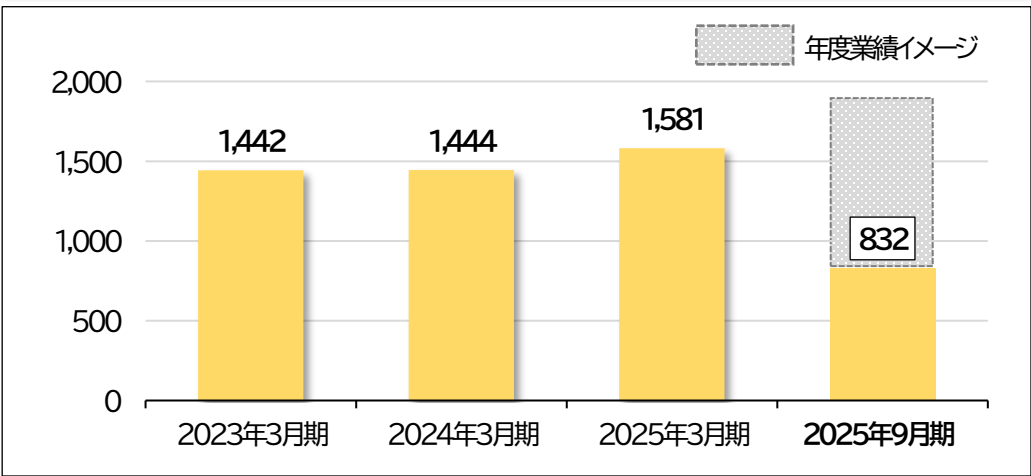
コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移 (単体・百万円)



資金運用収益の推移 (単体・百万円)



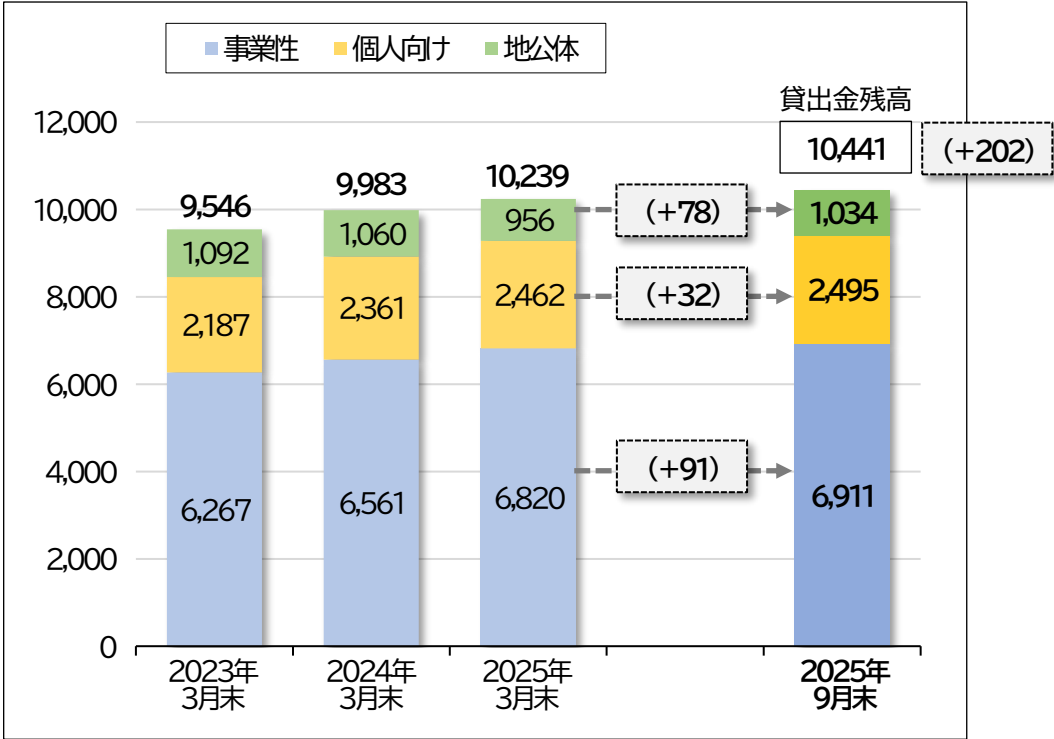
役務取引等利益の推移 (単体・百万円)



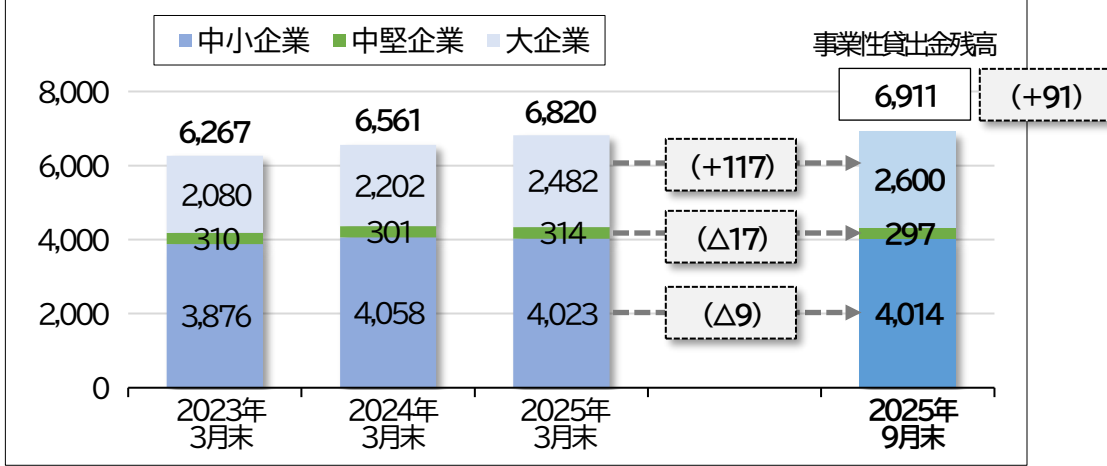
3 貸出金の状況

- 貸出金残高は各セグメントとも増加
- 事業性貸出金は、金利上昇局面の中、運転資金・設備資金の需要を掴み着実に増加
- 住宅ローンを中心に個人向け貸出は増加基調が継続

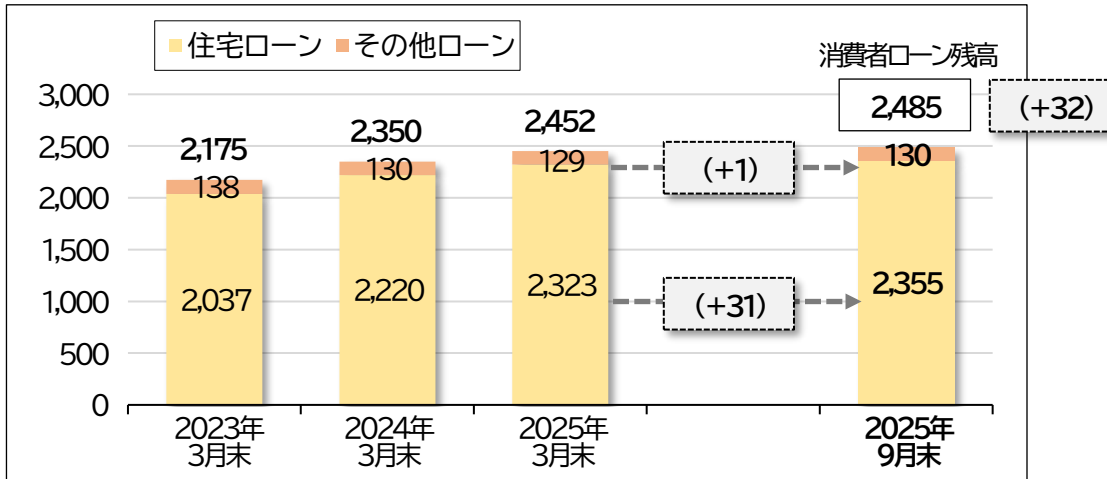
貸出金残高の推移 (単体・億円)



事業性貸出金残高の推移 (単体・億円)



消費者ローン残高の推移 (単体・億円)

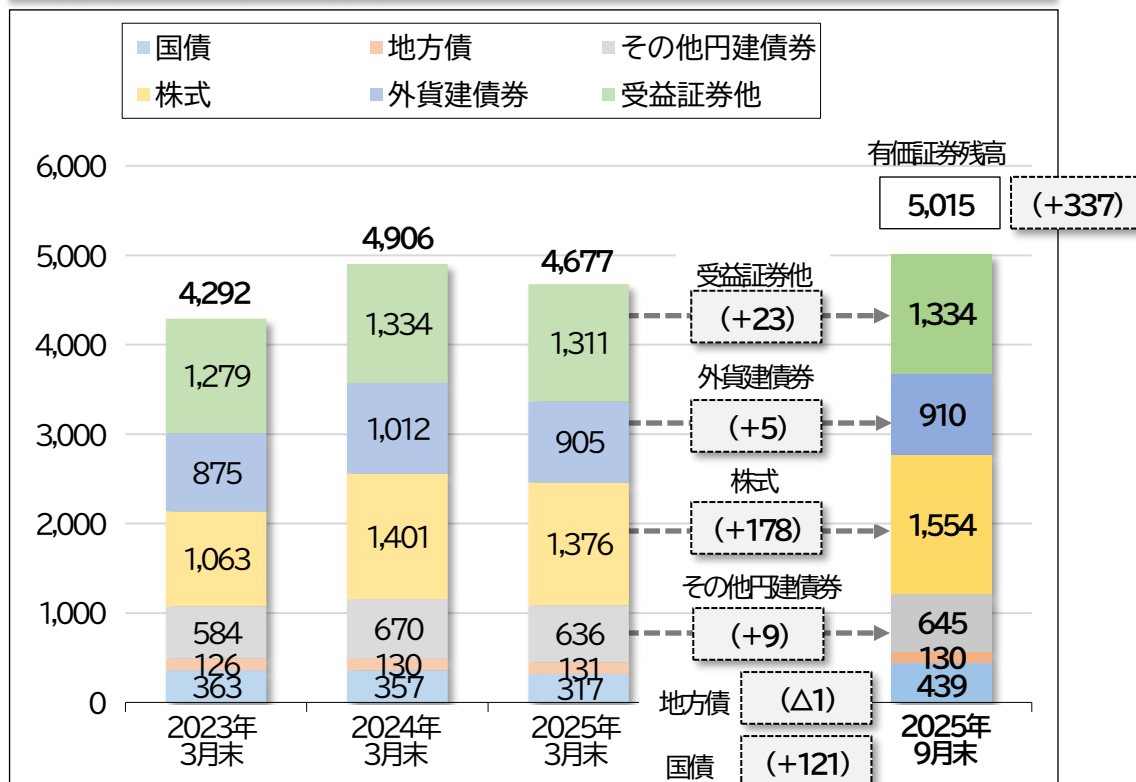


4 有価証券の状況

- 2025年9月末における「その他有価証券評価損益」は、677億円と増加
- 有価証券の収益拡大に向けて、株式・米国債・投資信託等、価格変動リスクをはじめとする各種リスクをコントロールしつつ、利回りの高い商品に入替を図りながら、残高を増やした結果、資金利益の増加に大きく貢献

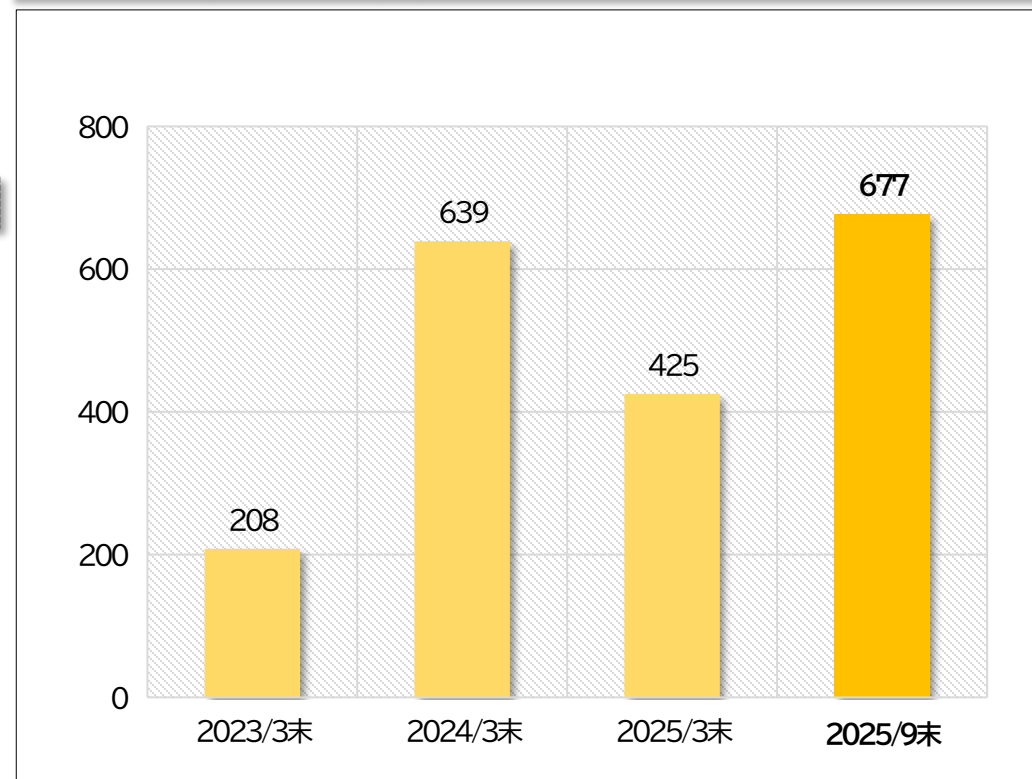
有価証券残高の推移

(単体・億円)



その他有価証券評価損益

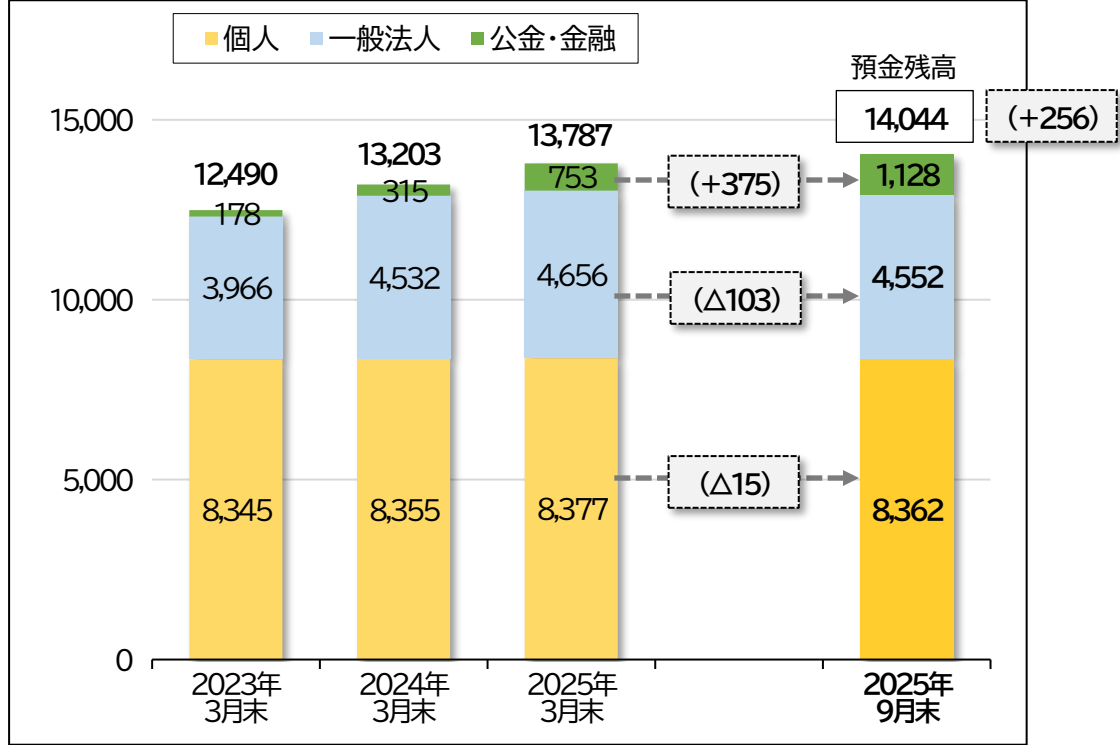
(単体・億円)



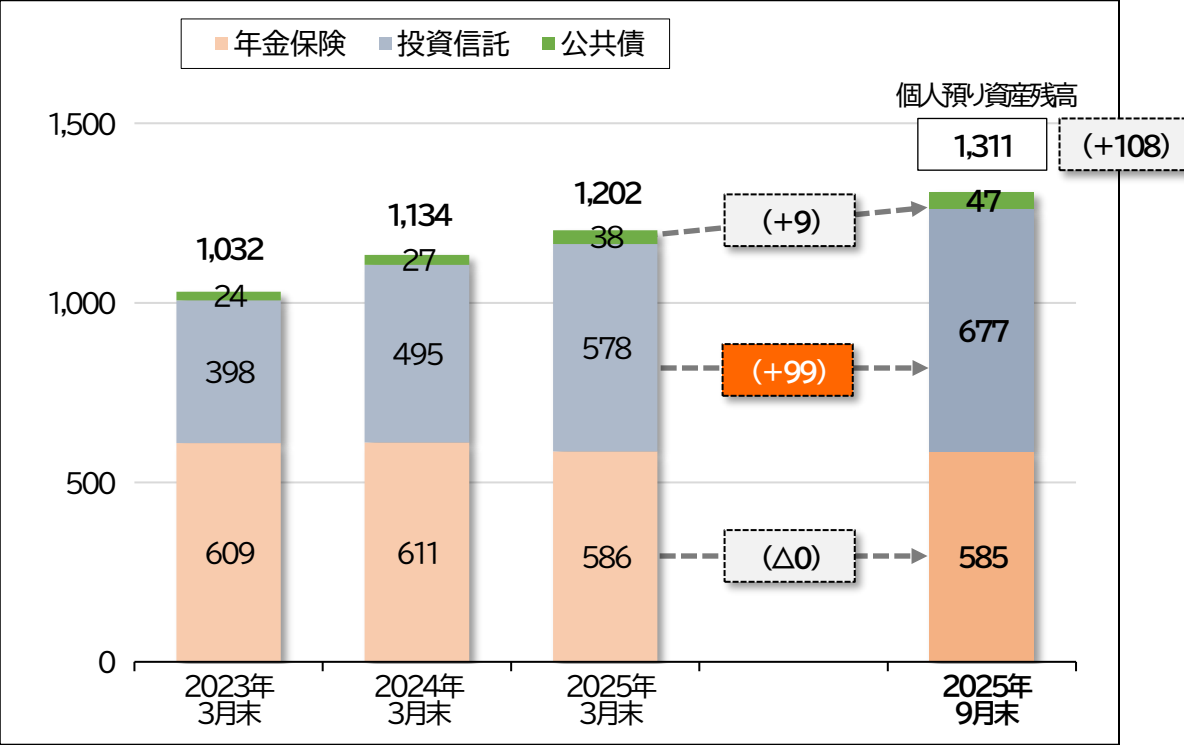
5 預金、個人預り資産の状況

- 預金残高は、**引き続き増加基調**
- 新NISAを含めた長期の視点による資産形成支援の取組みや、きめ細かなコンサルティング営業の定着により、**投資信託残高は大幅に増加**

預金残高(除く譲渡性預金)の推移 (単体・億円)



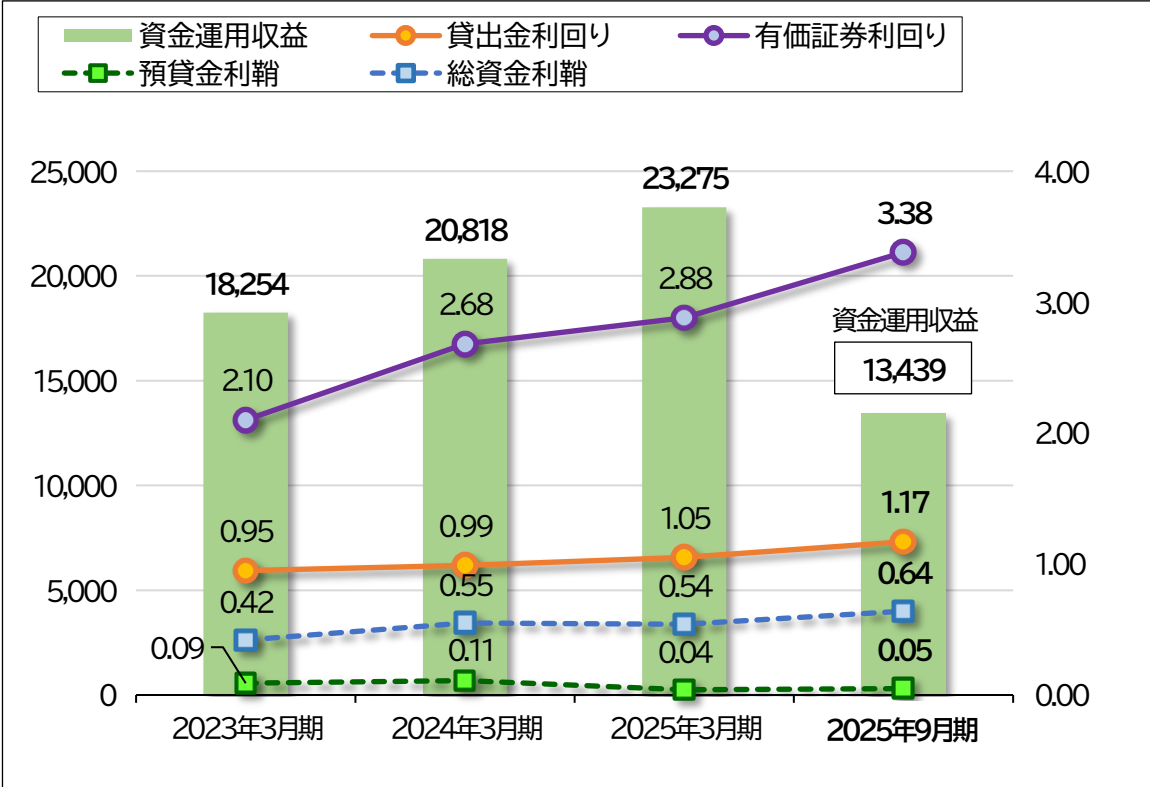
個人預り資産残高の推移 (単体・億円)



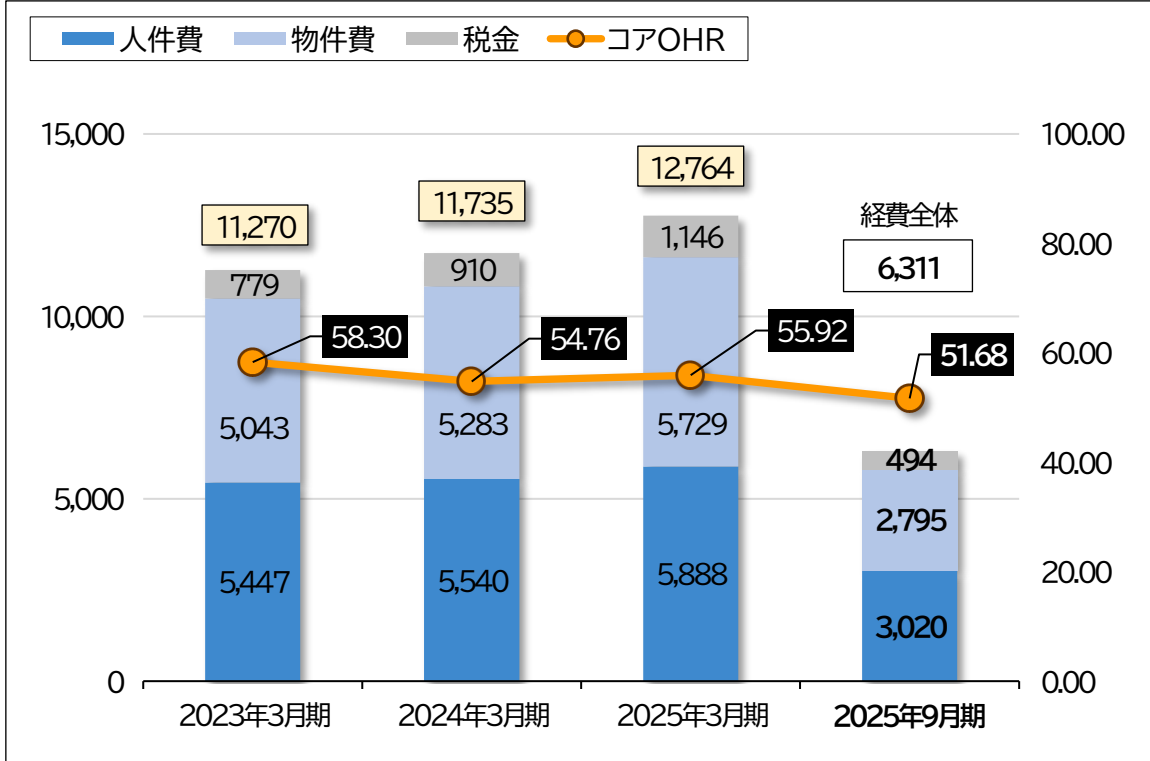
6 利回り・利鞘の状況/経費・コアOHRの状況

- 有価証券利回りは、高水準を維持し、地銀トップクラス
- 貸出金利回りは、市場金利の追随率も高まり、一段と上昇基調へ
- 賃上げにより人件費は増加するも、コア業務粗利益の増加により、コアOHRは更に低下

資金運用収益・利回り・利鞘の推移 (左軸:百万円、右軸:%)



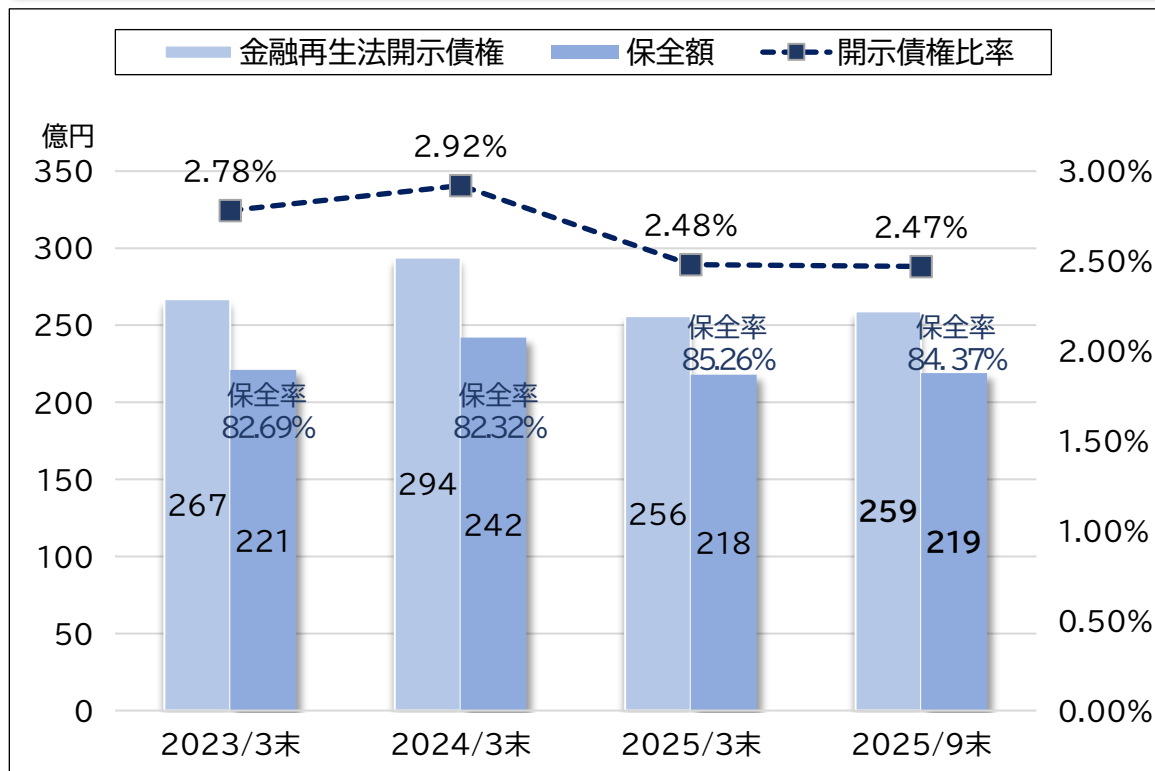
経費・コアOHRの推移 (左軸:百万円、右軸:%)



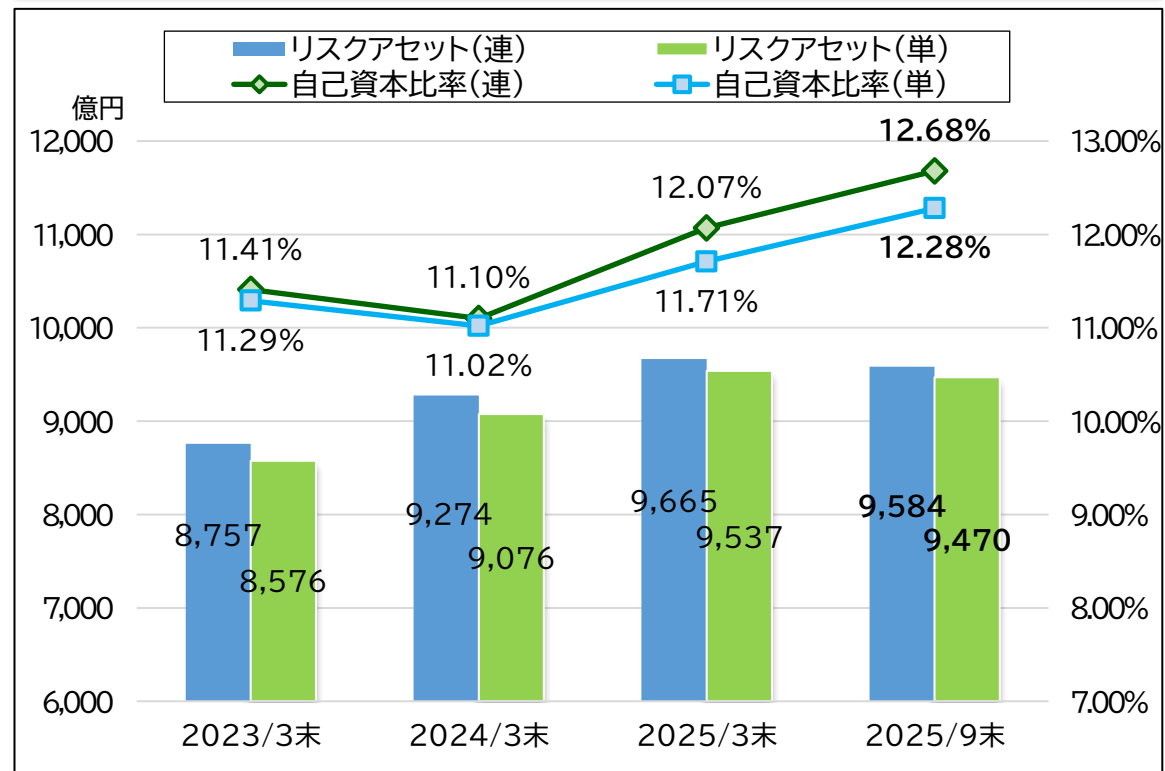
※ コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益 (除く国債等債券損益)

- 開示債権比率は0.01pt低下、開示債権残高に対する保全も十分に確保
- 2025年9月中間期における自己資本比率は、連結12.68%、単体12.28%と高い健全性を維持

金融再生法開示債権



自己資本比率・リスクアセット



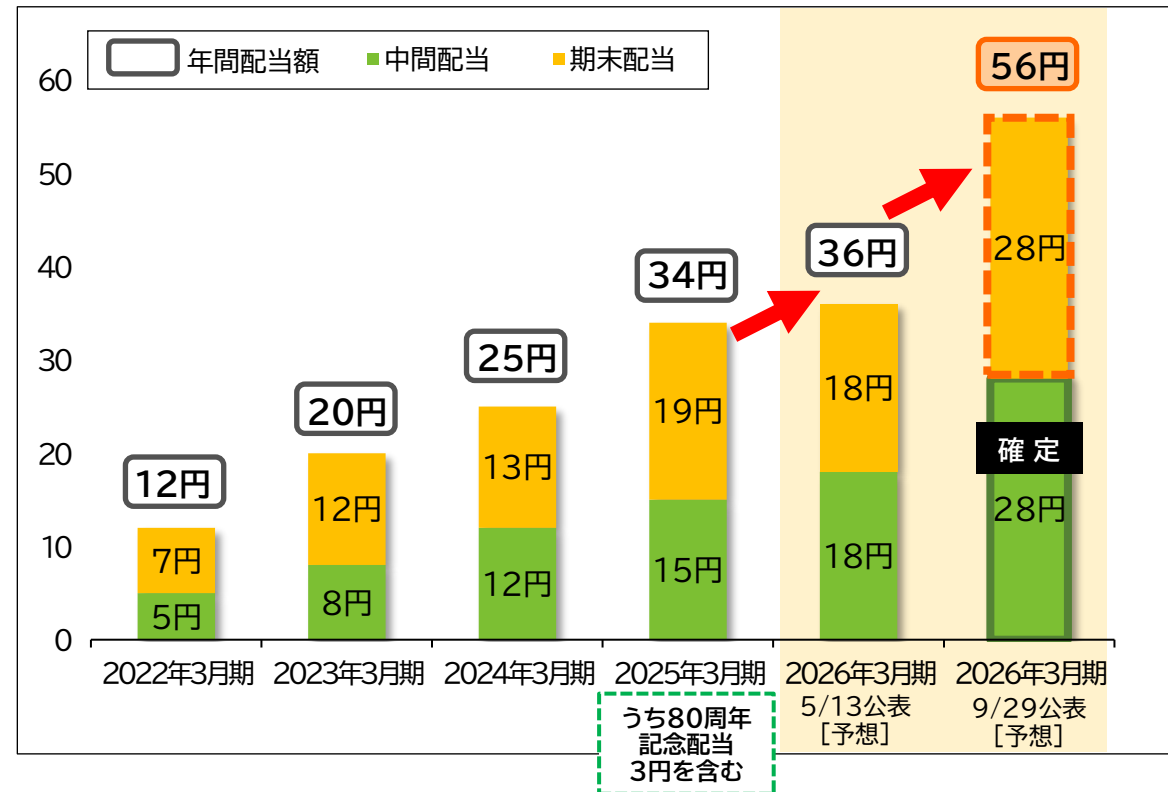
- 2026年3月期の業績予想は、有価証券関係損益の増加が当初予想を上回る見込みにより上方修正
 - 特殊要因のなかった2024年3月期比で大幅な増益見通し

連 結 (金額単位:百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 当初予想	2026年3月期 修正後予想
経常利益	9,223	18,959	9,200	14,700
親会社に帰属する当期純利益	5,284	13,354	6,000	10,000
		パーゼルⅢ完全適用実施を見据え、自己資本を積み増す重要課題への対応に位置づけした期間	2025年5月13日に公表した業績予想	2025年9月29日に公表した業績予想(上方修正)
単 体 (金額単位:百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 当初予想	2026年3月期 修正後予想
経常利益	8,887	19,228	9,300	14,400
当期純利益	5,204	13,951	6,500	10,000

ファーストバンクVISION10		
1st STAGE 計数目標 2028年3月期		2026年3月期 単体予想
当期純利益	60億円程度	100億円
株主資本ベースROE	6%	9.3%
コアOHR	60%未満	53.8%
自己資本比率	10%	12%

- 2026年3月期の中間配当額は、利益の上振れにより、**前年比13円増配の28円**
- 本年4月に変更し公表した株主還元方針(配当性向35%以上)に基づき、**年間配当額は56円と当初予想を大きく上方修正**
(2025年3月期対比 **22円の増配**)

配当実績と予想(2025年9月29日公表)



- 本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものです。特定の有価証券等の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された内容の全部または一部は、予告なしに修正または変更される場合があります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。当該記述につきましては、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等の要因により、実際の数値と異なる可能性があることにご留意ください。

本件に関するご照会先



富山第一銀行 総合企画部

TEL 076-461-3861

FAX 076-491-4162

E-mail souki@first-bank.co.jp

URL <https://www.first-bank.co.jp/>